

西山地区

コミュニティ協議会だより

【(西風) 令和8年6月号】

発行：西山地区コミュニティ協議会

会長 中村史傳

編集 中村美也子

令和8年6月23日発行

薩摩川内市下甕町瀬々野浦 1194

TEL 09969-5-0122

FAX 09969-5-0355

これからの行事（7月の行事予定）

- 1日 健康体操・七夕飾り作り
- 2日 主事 ZOOM 会議
- 7日 事務局会議
- 10日 役員合同定例会
- 14日 コミュニティトーク
- 15日 健康体操
- 18日 磯遊び（海岸清掃・つぶきの浜）
- 19日 健康サロン・地区内清掃
- 20日 かのこゆりグランドゴルフ大会
- 26日 ふるさとクリーン大作戦

イモ植え

6/3(水) 13名の方が参加して下さりイモ植えを行いました。植え方の指導をうけながら、アブにさされながらやりましたが、イモ植、かずら取りやイモ床作り、そしてこれからの草取りやイモ堀り・コッパ切り等まだまだ先は長いですが、いいイモがたくさん収穫できることを願っています。ご協力ありがとうございました。
主事 中村美也子



河川愛護

6/21(日) 河川愛護で自治会に分かれて2つの川の掃除を行いました。途中で雨が降り出し心配されましたが皆さん最後まで川周りをきれいにしてくださいました。伸びていた草や木々もさっぱり見通しがよくなりました。
ご協力有難うございました。



健康体操・健康サロン

5/17 (水) 先月実施できなかった健康体操が再開しました。久しぶりの体操を10名皆さん笑顔で楽しまれている様子でした。黒一点であちらこちらから笑い声が聞かれていました。

6/21 (日) 健康サロンにも23名の方が参加されました。



故郷を探る ③⑧

ナポレオン岩といえない人

8年6月発行の「薩摩川内市議会だよりNo.87」は、前の平展望所から臨む「ナポレオン岩」の写真が表紙に掲載された。この写真は少し高台から撮られており、いつも平地から見慣れた偏平なツウ瀬よりは、彫りの深い陰影のある人の横顔を思わせる写真となっている。瀬々野浦の海に屹立する島守りのナポレオンというキャプションがついている。すでに「ナポレオン岩」の名が定着して、シンヌウラ人さえも、もはや「ナポレオン」と呼ぶ人が増えてしまった。未だに「ツウ瀬」と呼ぶのは、私のようなへそ曲がりの頑固者だけである。普通は、チュウ瀬といっているから「沖瀬」と漢字表記されることが多いが「沖瀬」と対になっている「ヘタンツウ瀬」の呼び名に矛盾が生ずることになる。

海の陸地からの遠近を表わすことばが「オキ」と「ヘタ」である。「オキ」は陸地から遠く離れた海。「ヘタ」は陸地に近い海である。「ヘタ」は「辺津(へつ)」の訛りである。すなわち「ヘタンツウ瀬」の矛盾とは「辺津(ヘタ)にある沖(オキ)瀬」となって「沖瀬」の表記はおかしなことになる。昔のシンヌウラ人は「ツウ瀬」と発音する人が多く、「チュウ瀬」と発音する人は少なかった。

「チュウ」が「ツウ」になるのはシンヌウラ語の訛りの特徴である。昔の人は「空中」のことを「ツウ」と言っていた。「ツウを飛ぶ」とか「ツウにイナビカイ(稲妻)がする」とか「ツウが(夕焼けで)赤こうなって」などとは祖父母の代の人たちのことばであった。私の勝手な想像では「ツウ」(空中)にそびえたつ瀬からきたツウ瀬ではないかと思うのである。舟でアゴ下あたりに行くと見上げると、まさに空中(ツウ)にそそりたつ摩天楼である。その空にそびえたつ迫力には圧倒される。どこかに「宙瀬(チュウセ)」と表記されていたが、宙は「おおぞら・宇宙・地面から離れた空間」を表わすからツウ瀬の形状からみたらこの「ツウ瀬」の方がしっくりくる。また三国名勝図会では「千経瀬(チフセ)」とも書かれている。これは長い地質の年代を経てツウ瀬ができあがったことを表現しているようでもおもしろい。漢字表記すればついつい漢字の意味に引かれてしまって、もともと方言のもつ意味とはかけはなれしまうことが多い。だから私は方言名の「ツウ瀬」でこだわるのである。ちなみに、ナポレオン=ボナパルトの最初の妻はジョセフィーヌといい美貌の人だったようだ。「ヘタのツウ瀬」も細面のやさしい顔をしていると見る人が多い。二番目の妻は、マリア・ルイーザ。だとすれば「ヘタのツウ瀬」も「ジョセフィーヌ岩」か「マリア岩」とかの名を付けなければ、男女同権の世に反することとなる。(笑)



中村史傳